

租税特別措置法第40条第12項の規定により準用する同条第11項の規定による公益認定の取消しの処分を受けた当初法人から公益目的取得財産残額に相当する額の財産の贈与を受けた場合の届出書

令和 年 月 日



国 税 庁 長 官

届 出 者 千
(引継法人) 所在地

フリガナ

名 称

法人番号

代表者氏名

(連絡先)

氏 名

電話番号

租税特別措置法第40条第1項後段の規定の適用を受けて行われた贈与又は遺贈（以下「特定贈与等」といいます。）による財産等に基づく公益目的取得財産残額に相当する額の財産を下記のとおり特定贈与等を受けた公益法人等（当初法人）から贈与を受けましたので、租税特別措置法第40条第12項の規定により準用する同条第11項の規定による届出をします。

当初寄附年月日	昭・平・令 年 月 日	承認年月日	昭・平・令 年 月 日
---------	-------------	-------	-------------

当初法人が特定贈与等を受けた財産等の寄附者	住 所 番 号	(寄附時の住所)
	電 話 番 号	(電話番号 - -)
	フリガナ氏名	

承認を受けた財産の明細							
種類	細目	所在地	数量	種類	細目	所在地	数量

当初法人（特定贈与等を受けた公益法人等）			
主たる事務所の所在地			
フリガナ名称		代表者氏名	
法人番号		(電話番号)	(- -)

当初法人が特定処分を受けた年月日	特定処分後に特定一般法人に該当することとなった事情の詳細
平・令 年 月 日	

届出者が贈与を受けた財産等の明細							【贈与を受けた年月日 平・令 年 月 日】	
種類	細目	所在地	数量	特定処分前日における価額	使用開始(予定)年月日	使用目的		
				千円	・ ・			
					・ ・			

租税特別措置法施行令第25条の17第23項第2号に掲げる引継財産である場合の金額	(左欄の金額の計算に関する明細)
円	

届出者が引継財産で取得した財産の明細							
種類	細目	所在地	数量	取得価額	取得年月日	使用開始(予定)年月日	使用目的
				千円	・ ・	・ ・	
					・ ・	・ ・	

贈与を受けた資産が特定贈与等に係る財産等であることを知った日	令和 年 月 日
--------------------------------	----------

その他参考事項 (やむを得ない事情により贈与の日の翌日から1年以内に使用開始できない場合のやむを得ない事情等を含みます。)

使用開始予定年月日	令和 年 月 日
-----------	----------

作成税理士
事務所所在地
署名 (電話番号)

* 税務署整理欄 (この欄の項目は記載する必要がありません。)								
通信日付印	確認者	寄附者所轄署	1 自署 2 他署(自局) 3 他署(他局) 4 不明	送付年月日	署→局 局→署	(1)	(2)	番号確認

〔記載要領等〕

《使用区分》

この届出書は、租税特別措置法（以下「措置法」といいます。）第40条第8項に規定する引継法人が、同条第1項後段の規定の適用を受けて行われた贈与又は遺贈（以下「特定贈与等」といいます。）を受けた公益法人等（同条第6項から第12項までの規定によりこの公益法人等とみなされた法人を含みます。）で、特定処分（公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第29条第1項又は第2項の規定による同法第5条に規定する公益認定の取消しの処分をいいます。）を受けたもの（以下「当初法人」といいます。）から、当該当初法人の定款の定めに従い特定贈与等による財産又は代替資産（措置法第40条第5項に掲げる資産を含みます。）に基づく公益目的取得財産残額に相当する額の財産の贈与を受け、同条第12項の規定により準用する同条第11項の規定の適用を受けるとき（当該当初法人が同条第8項の規定による書類（届出書）を提出しなかった場合に限り）に使用します。

《記載要領》

- 1 「届出者（引継法人）」には、当初法人から公益目的取得財産残額に相当する額の財産の贈与を受けた引継法人の主たる事務所の所在地等を記載してください。なお、「所在地」欄は「丁目」、「番」及び「号」を省略せず、「〇〇市△△区××1丁目2番3号」というように記載してください。
- 2 「当初法人が特定贈与等を受けた財産等の寄附者」欄には、特定贈与等をした者の現在及び寄附時の住所等を記載してください。なお、「住所」欄は「丁目」、「番」及び「号」を省略せず、「〇〇市△△区××1丁目2番3号」というように記載してください。
- 3 「承認を受けた財産の明細」欄には、当初の寄附時に措置法第40条第1項後段の規定による承認を受けた財産の明細を承認申請書第3表の記載要領に準じて記載してください。
- 4 「当初法人（特定贈与等を受けた公益法人等）」欄には、当初法人の主たる事務所の所在地等について記載してください。なお、「主たる事務所の所在地」欄は「丁目」、「番」及び「号」を省略せず、「〇〇市△△区××1丁目2番3号」というように記載してください。
- 5 「届出者が贈与を受けた財産等の明細」欄には、引継法人が当初法人の定款の定めに従い公益目的取得財産残額に相当する額の財産の贈与を受けた場合の、当該財産の明細を承認申請書第3表の記載要領に準じて記載するとともに、具体的な使用目的、措置法第40条第8項に規定する財産等以外の引継財産の金額及び当該金額の計算に関する明細を記載してください。

（参考）1
$$\frac{\text{措置法第40条第8項に規定する財産等以外の引継財産の金額（租税特別措置法施行規則第18条の19第16項）}}{\text{公益目的取得財産残額} \times \text{財産等の特定処分を受けた日の前日の価額}} \div \text{公益認定法施行規則第49条第1号及び同条第2号の金額の合計額}$$

2
$$\frac{\text{公益認定法施行規則第50条第1項の規定の適用がある場合の措置法第40条第8項に規定する財産等以外の引継財産の金額（租税特別措置法施行規則第18条の19第17項）}}{\text{公益目的取得財産残額} \times \text{財産等の特定処分を受けた日の前日の価額}} \div \text{公益認定法施行規則第50条第3項第1号及び同項第2号の金額の合計額}$$

- 6 「届出者が引継財産で取得した財産の明細」欄には、引継法人が、公益目的取得財産残額に相当する額の財産の贈与を受けた場合に、当該財産をもって新たに取得した財産の明細を承認申請書第3表の記載要領に準じて記載してください。なお、「使用目的」欄は、具体的に記載してください。
- 7 「その他参考事項」欄は、その他参考となる事項や財産等がやむを得ない事情により贈与の日の翌日から1年を経過する日までの期間内に公益目的事業の用に直接供することができない場合のやむを得ない事情等について具体的に記載してください。
- 8 この届出書は「当初法人が特定贈与等を受けた財産等の寄附者」ごとに作成してください。

（注） 既存の書類等でこの届出書に記載すべき内容が記載されたものがある場合には、この届出書の適宜の箇所に「別紙のとおり」と記載の上、この届出書と既存の書類等を提出しても差し支えありません。

《添付書類》

- 1 引継法人が贈与を受けた財産等の登記事項証明書など当初法人から贈与により取得したものであることを明らかにする書類
- 2 引継法人の登記事項証明書等
- 3 引継法人が贈与を受けた財産等がやむを得ない事情により贈与の日の翌日から1年を経過する日までの期間内に公益目的事業の用に直接供することができないと認められる場合には、その事情に至った事実が確認できる書類等